

全教神協広報

第二一六号

全国教育関係神職協議会

〒二五〇〇五三

東京都渋谷区代々木一〇二

神社本庁内

電話 〇三三三七九八〇一一

FAX 〇三三三七九八二九九

題字 諏訪秀一氏

前向きな努力から

全国教育関係神職協議会 副会長 鈴木 俊子



全国教育関係神職協議会も創立から早くも六十五周年へと向かっています。本年は戦後八十年、昭和から換算致しますと百年、阪神淡路大震災、地下鉄サリン事件からも三十年が経ち、コロナ禍からは五年目、世界に目を転じますと令和七年の現在、イスラエルによるガザへの攻撃は続き、ロシア、ウクライナに於ても依然として戦禍の中にあります。全教神協として今、何が出るのか

かと考えますと、目の前で拘わる子どもたちに日本人としての自覚と誇りを芽生えさせ、日本語を大切にすること、正しい歴史認識を持つこと、文化・伝統を大切に継承し学ばせること、日本の神話の中に在る「清き明き心」を伝えていくこと、全ての学びが国を愛すること郷土を愛する力となり、そして同じく世界で暮らす人々を大切に思う心を培うことへと繋がっていく様な導きをしていくことしかありません。一人一人の力は大変微力ではありますが、本会が全国組織であるという特性を活かしていく努力が今後更に必要であると思います。

私達の前には、戦後の昭和三十五年、敗戦後の日本の教育が危ないとい

憂い子どもたちのために立ち上がり、試行錯誤をしながら、この全教神協（当時の名称は全神協）として活動をし、様々な時代時代を繋げてきてくださった多くの諸先輩の先生方の尊い情熱に満ちた後ろ姿があります。それぞれの時代で教員と神職を兼職し、日本の子どもたちのために全国各地で努力を重ねてこられた足跡があるのです。内憂外患の今をしっかりと会員一同それぞれの持ち場で乗り越えてゆくしか道はありません。

デジタル化、AI社会が叫ばれている昨今ではありますが、喫緊に必要なのは人間のアナログな温かい心です。子どもたちに何かを真に伝えるにはデジタルな心では届きません。情熱を傾け人一倍汗水を流し続けなければ、人の心には入ってゆけません。全教神協の先生方は周知のことです。世間を騒がせている闇バイト等の短絡的な事件の数々には戦後、経済を最優先にし、(日本人が生きるために精一杯であったという事実も含め) 心の問題を置き去りにしてきたことも大きな要因の一つである様に思えてなりません。短絡的な利那主義の若者をそのまま大人にさせないためには、周囲の大

人たちの温かい心と厳しい教え、見守り続ける眼差しが何よりも必要です。心のありかが大切であることを教え諭して導いていけるのは、やはり教員と神職を兼職してきた私達全教神協の会員一人一人であると思います。「日本人に生まれてきて本当によかったなあ。」「この国のためにしっかりと仕事をどうぞ。」大人になった時、胸を張ってそう言いける子どもたちを育てていく努力が必要で。幼いうちから何のために学んでいるのかを教えることが大事であると強く思います。六月の現職教員等研修会では、元職も現職も共に現在の教育現場の実状をしっかりと学び再確認をし、八月の兵庫県での全国大会では、全国各地の先生方と交流を温め情報交換をし大いに学ばせていただき明日への活力とすることが急務です。

日本の国の未来を見据え、時にはしっかりと立ち止まり、思索を重ね、当たり前のことを教壇に立つても御社頭であつても、どこに居てもきちんと伝えていくことが何よりも大事です。会員一同、力を合わせ前を向いて日本の子どもたちの未来のために力を尽くして参りたいと思います。